

**平成30年度第1回  
経営発達支援事業評価検討委員会議事録**

1. 開催日時：平成30年4月11日（火）午前10時00分から午前11時30分

2. 開催場所：あさひかわ商工会館 2階 研修室A

3. 出席者

「経営発達支援事業評価検討委員」 6名

- ・旭川市経済総務課：野澤 和広
- ・日本政策金融公庫：坂口 肇
- ・旭川産業創造プラザ：中川 敏史
- ・北海道商工会連合会：渡部 正樹
- ・あさひかわ商工会：円山 宏一
- ・あさひかわ商工会：南出 敏

「事務局」 5名

- ・島田成人、遠藤寿一、渡辺 悟、吉田雅人、瀬良明則

4. 議事経過

定刻に至り、円山委員長からの開会あいさつに続き、円山委員長が議長となり議題の審議を進めた。

**(1) 経営発達支援事業による伴走型支援事例の報告**

経営指導員 瀬良明則から【資料1】に基づき、経営発達支援事業による伴走型支援事例として、A社へ実施した支援事例の報告を行った。

議長は瀬良指導員からの報告の後、出席委員に質疑を求めた。

野澤委員：支援で活用した補助金は単年度補助ですか。

瀬良指導員：持続化補助金は単年度の補助事業ですが、現在公募中で申請し採択されれば2回、3回と活用することもできます。

野澤委員：これからも支援を継続されると思いますが、大型の家電量販店が旭川市に進出していますので、一般の家電小売店は大変なのかなという思いはあります。しかし、それらのお店は高齢者の方へのサポートをはじめ、地域にしっかり密着しています。

東京オリンピック 2020年に向けて、デジタル放送の規格が変わるという動きもある中で、地域の方がテレビを見られなくなるという状況も出てくると思います。一般の家電小売店がそういうサポートをする中でリフォーム等の受注にも広がっていくのではないかと感じたところです。地域密着型の強みをいかした営業展開がで

きるものと思います。

坂口委員：社長はまだ若いですが、後継者の方はいるのですか。

瀬良指導員：後継者はいない。

中川委員：リフォームは何回もすることではないと思いますが、お客さんはどういう紹介で来られるから、何を見てこちらに来られるのですか。

瀬良指導員：店舗が、旧住宅街と振興住宅の境目にあって、今はどちらかというところ、旧住宅街のお客さんが多い。メーカーのパンフレットや自社のパンフレットを訪問し配布しています。そういう事を継続することで、次に行ったとき「キッチン入れ替えようと思っているのだけど。」と、売上が立っている。

中川委員：今までのローラー作戦が功を奏している感じですね。リフォームと言えは知り合いのお店とか、そういうところに行くのかなと思っていました。

システムキッチンやトイレ、お風呂などは家電屋さんにも置いてある。その中で、このお店を選んでいただいていることは、逆にすごいことと感じました。

瀬良指導員：信用信頼、お客様との密接なつながりから顧客を確保しているのだと思います。

中川委員：家電販売はこれからも環境は厳しいと感じています。特に旭川は人口の割に家電量販店も多くありますから。その中、家電販売にも付加価値をつけていかなければなかなか向上していくのは難しいと感じていて、電化製品を変えた時、ただ付け替えの設置をするだけではなく、リモコンチャンネルの使い方やこういう風にやればNHKの投票ができますよ、など教えていく家電屋さんもあり、そういうところに高齢者の方は頼むのも多いと聞いたことがあります。そういう事をやられていたのかなと感じていました。これからも、色々なことが変わってくると思います。

円山委員長：情報発信はチラシ・パンフレットですか。

瀬良指導員：基本的には今もそうですが、話が進めば最終的にはご来店いただき、実物を見ていただくことで購入していただける機会が増えます。当初は社長に「ショールームを構えている店舗に誘導してはどうですか？」との提案もしましたが、他の店舗とは繋がりがあろうとまったく無く、いかに自分が努力できるかといった面があるようです。

円山委員長：近くの家電店は年に4回ほど展示会などのイベントを実施しています。幅広く宣伝していかなければならないのでしょうか。

瀬良指導員：ここの事業所も実施しています。メーカーの指導もあると思います。

南出委員：小規模事業者 アフターフォローの充実。大型店にできない事をやっていかなければならないのかなと感じました。

中川委員：冷蔵庫や洗濯機は定期的なメンテナンスもあります。ダメになったから取り換えるのではなく、洗濯機であればドラムとか冷蔵庫であれば消臭機能など、定期的にメンテナンス情報を発信してみてもどうでしょうか。

瀬良指導員：ここは顧客管理もしっかりされており、何年前に何を買った人に、今年何の情報発信する、ということは徹底しています。

議長は他に提案や質問を求めたが、質疑はなく、伴走型支援事例の報告を以上とし、次

の議題、「平成29年度経営発達支援計画及び伴走型小規模事業者支援推進事業の実績について」及び「平成30年度経営発達支援計画及び伴走型小規模事業者支援推進事業の計画について」を関連事項のため、事務局に一括して説明するよう求めた。

**(2) 平成29年度経営発達支援計画及び伴走型小規模事業者支援推進事業の実績について**

事務局から【資料2】に基づき、平成29年度に実施した経営発達支援計画及び伴走型小規模事業者支援推進事業の実績について説明した。

**(3) 平成30年度経営発達支援計画及び伴走型小規模事業者支援推進事業の計画について**

事務局から【資料3】に基づき、平成30年度の経営発達支援計画及び伴走型小規模事業者支援推進事業の計画について説明した。

議長は事務局からの説明の後、出席委員に質疑を求めた。

渡部委員：ただいまの事務局説明を聞きまして、C評価をする項目は1つもないと思います。

北海道内ではあさひかわ商工会が先駆けの取組をしておりますし、結果も残っております。

円山委員長：指導員が6名いて一致団結しながら事業を推進しています。

中川委員：自己評価Cとなっている項目は、評価基準での定量的な目標の到達率で判定していることと思いますが、取組内容自体はいいと思います。自己評価CのところはB評価でいいのかなと感じました。

A評価のところは取組自体評価されていいと思います。

新たな需要開拓の項目は、自己評価Bとなっていますが、販売促進に関しても展示会出展という新たな取り組みも実施していますし、ホームページ作成に関しても皆が皆作成しなくても、必要性を感じたと言う評価があったということはA評価でいいと思います。

地域活性化に関する取組に関しては評価がしづらいつ感じています。

渡部委員：地域経済活性化の項目は、基本的に経営発達支援計画の外にあるものですが、地域で商売される小規模事業者の方々が良くなっていくためには、個々の活動だけで商売する環境を良くなるのは難しいので、地域全体で盛り上げて商売をする環境を良くしていこうという発想です。そういう取り組みとは何か、ということが問われています。うまくいったところは押しなべて、多業種で連携して協議会など、全体が一つの方向をみるという組織的なものがある、集まる場がある。そのため、そういうものがない場合はそういう組織を作ってやってみませんか、ということだと思います。

もう一点、需要動向調査も自己評価Cとなっていますが、先ほど事務局の説明の中でもありましたが、あさひかわ商工会が経営発達計画認定を受けた時と今の運用方法が少し違うという点があります。需要動向としての情報提供数は50程度と今

の運用から考えると、B評価でいいと判断します。

円山委員長：経営発達支援計画は5年間の計画で始めましたが、その後はどうなるのでしょうか。

渡部委員：31年度中に改めて申請することになります。

本年度中小企業庁の諮問機関の中政審の中に小規模部会ができます。新しい基本計画の基に31年度の認定申請することになります。

円山委員長：創業者3名はこの事業が始まってからですか。

事務局：経営発達支援計画事業始まる前、創業支援事業（強化法）で行った創業塾の参加者も含まれますが、本年創業された方が3名いたということです。

中川委員：就職率が上がってきて、創業関係セミナーの参加者が減少傾向にある中、女性対象の創業塾の参加率がいいのは評価できると思います。

円山委員長：30年度の事業計画の中にプロモーションビデオがありますが、これはテレビですか。

事務局：テレビではないです。小規模事業者の動画を制作して、あさひかわ商工会HPに特設サイトを設けるなど情報を発信し、視覚的に特徴をわからせることで、売上に結びつけていこうと考えています。また、SNSでの発信も可能なので、名刺替わりにスマホ等で映像を見せることも可能と考えています。

渡部委員：販売促進策は前年度に事業計画を作って、プロモーションビデオで情報発信することで、どのくらい売上や利益が伸びるのか、というところまで問われます。

南出委員：結果が求められているということですね。

渡部委員：結果は問われてきます。何回支援したというアウトプットももちろんですが、何回支援して、どの事業者にどんな成果があったのかというアウトカムの部分が見えないといけない。

野澤委員：アウトカムが国の評価でも重要な位置づけとなっていますので、ある程度アウトカムを出していかなければならないと思います。全体的な流れです。

渡部委員：プロモーションビデオ事業もいい内容と思いますが、きちっとした位置づけで実施しないと、誰でも対象とするのは、難しいと思います。

#### (4) 事業の評価・見直しの検討

議長は今までの検討をもとに出席委員に評価を求めた。

中川委員：自己評価CのところはBで、自己評価BのところはAでよろしいと思います。

渡部委員：経済動向調査は最後の四半期集計されていないことを踏まえたと、Aでいいと思います。また、需要動向は情報提供数は50前後で推移していますし、目標がないものも実績が上がっています。B評価でいいと思います。

議長は、経済動向調査は自己評価 C から A、その他は、自己評価 C のところは B、自己評価 B のところは A ということで、議場に諮ったところ異議なく、以上の評価で公表する旨告げた。

委員長は他に提案や質問を求めたが、質疑はなく、長時間にわたる審議について謝辞を述べ、午前 11 時 30 分閉会を告げた。